

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 6 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2013

課題番号：21530281

研究課題名(和文) グローバル化時代におけるベトナムのインフォーマル部門と労働集約型工業化の可能性

研究課題名(英文) The informal economy in Vietnam and its potentials for labor intensive industrialization under globalization

研究代表者

後藤 健太 (Goto, Kenta)

関西大学・経済学部・准教授

研究者番号：70454981

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円、(間接経費) 1,020,000円

研究成果の概要(和文)：今日の経済のグローバル化がもたらす途上国のインフォーマル部門への影響については、多くの研究者や開発関係者が関心を寄せるようになってきた。こうした関心の拡大を背景に、本研究では、多くのインフォーマル企業が活躍するベトナムの国内市場を中心に担う縫製産業に焦点を当て、グローバル経済化が地場企業・産業にもたらす影響と途上国の労働集約型の工業化戦略について、グローバル・バリュー・チェーンの分析枠組みを用いて研究を実施した。その結果、グローバル経済化において、途上国の産業高度化に対するインフォーマル経済の可能性と、これまで輸出志向型の開発政策では見過ごされてきた国内市場の重要性が明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：The informal economy is the largest provider of non-agricultural jobs in many developing countries, and how this sector has been affected by the globalizing trend in production and distribution has become one of the key concerns of its policy makers and development professionals. In line with this, this research focused on how the ongoing globalization has affected the informal economies in developing countries, by looking at the case of the Vietnamese domestic market oriented garment industry, using the global value chain (GVC) framework. In light of upgrading possibilities of local informal industries in developing countries, and also in terms of its overall industrialization prospects, it has been argued that while export markets remain important avenues for industrial upgrading, there should be more emphasis on domestic market oriented policies to realize further sustainable growth.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済政策

キーワード：グローバル経済化 ベトナム 縫製産業 インフォーマル経済

## 1. 研究開始当初の背景

インフォーマル経済部門はアジアの途上国にとって極めて重要であり、その非農業労働者の約7割を雇用していると推計されている。ベトナムにおけるインフォーマル部門の規模を示す統計データはないが、都市部を中心に非常に大きなインフォーマル経済が存在しており、雇用の創出と地場産業の活性化に大きく貢献していることが知られている。

今日の経済のグローバル化は、このインフォーマル部門を含む途上国経済を国際的な生産・流通ネットワークに積極的に組み込む形で展開されてきたが、そのインフォーマル部門への影響については、多くの研究者や開発関係者が関心を寄せるようになってきた。この問題に関連する見解の一つに、経済のグローバル化がインフォーマル部門を含む途上国の経済発展、とりわけ産業の高度化に重要な役割を果たすとする議論がある。これらの議論では、海外直接投資や技術移転、そして先進国市場へのアクセスなどが途上国の産業化・工業化と経済発展に不可欠であると指摘されている。他方、経済のグローバル化による競争圧力が、途上国経済の生産要素費用の引き下げや、これに伴う労働条件の悪化につながっていると指摘するものも多い。こうした圧力は、途上国でも弱い立場に置かれているインフォーマル部門従事者にとりわけ強く影響しているとされている。

## 2. 研究の目的

上記のような背景と、その問題関心の高まりとは裏腹に、客観的なデータに基づいた実証研究の蓄積はまだ比較的少ない。そのため、途上国のインフォーマル経済を対象もしくは包括し、経済のグローバル化を前提とした産業高度化への課題や可能性についてはまだ十分に明らかになっていない。したがって本研究では、ホーチミン市のインフォーマル部門の実態を、マイクロデータを用いて分析し、これを事例としてグローバル経済化がいかにインフォーマル経済と関わり、いかなる影響をもたらす、それがどのような条件のもとで産業高度化の原動力となりうるのかという点を検証してきた。また、ベトナムのフィールドワークで得られた知見をベースに、それを他国(カンボジア、ラオス、タイ、ミャンマーなど)の産業発展の問題にも積極的に応用し、分析することで、ベトナムをはじめとした途上国の産業化の問題をより広い視点からとらえるように心がけてきた。

## 3. 研究の方法

インフォーマル部門に関するこれまでの研究の多くは、路上の屋台事業者や小売業者など零細なサービス業に焦点を当てたものが多いが、本研究では途上国で典型的な労働

集約型工業部門であり、ベトナムの主要輸出産業でもある縫製産業に着目した。研究対象として縫製部門を選んだ理由としては、同産業の輸出セクターがグローバル経済との関わりの中から発展してきたことと、この輸出セクターとの関係が薄かったインフォーマルな縫製部門との関連を分析することで、経済のグローバル化とインフォーマル部門の関係を明らかにすることが可能となるからである。また、経済のグローバル化においてベトナムのインフォーマル経済が産業高度化にどのような影響をもたらしているのかを検証することで、東アジアの発展パターンであった輸出志向型の労働集約型工業化の他国への応用可能性を検証することも可能となるという点もあげられる。

具体的な研究の方法としては、主に国内市場向けに生産と流通を行うベトナムのインフォーマル企業を対象とすることから、現地(主にホーチミン市)でのフィールドワークによる一次データの収集とその分析が中心となった。

## 4. 研究成果

1) ベトナムでは多くの輸出志向型縫製企業が仕様や生地などを海外バイヤーから無償で供給され、知識集約度が相対的に低く、汎用技術を多用するいわゆる CMT (Cut, Make and Trim) 型委託加工による生産流通形態をとっている。その生産と流過程において、ベトナム企業はより高度な機能であるデザインやマーケティングなどにはかかわっていない。しかしこれに対し、国内市場を中心に担うインフォーマルな縫製企業では、自ら製品企画から資材の調達、縫製までを行っていることが多い。また自社小売店を整備し、衣類品の流通まで担うなど市場形成にまでかかわる企業も少なくない。輸外型縫製企業が比較的単純で労働集約的な組み立て工程に特化していたのに対し、国内市場を中心とした縫製企業は上述のような、より知識集約度の高い機能を担ってきたのである。この結果、縫製工程に関してはより進んだ海外の先進的な設備や生産システムへのアクセスがあった輸外型企業が効率性・品質という側面において強い優位性を発揮したものの、国内市場型企業は市場の不確実性にまつわるリスクが高いが付加価値も比較的高い機能を担うことで成長を実現してきたことが明らかとなった。

2) ベトナムのような経済発展の著しい新興工業国では、各企業は著しい賃金の上昇圧力の影響を受け、高度化を成功させることで労働力を確保することが死活問題となってきている。そのため、グローバル化による競争激化が直接賃金などを含めた労働条件の低下もしくは抑圧につながるとは言えず、むしろ

る企業にとっては高度化を実現させることでより良い労働環境を提供する必要性が高まっている。ただし、労働面におけるグローバル化の影響は、労働者のスキルレベルや労働市場の統合度・制度設計によって異なる可能性が高く、この点に関しては、今後の研究が必要であると思われる。

3) 国内市場を中心に担う企業の多くはインフォーマルな企業であるが、それらの企業は輸出型企業と異なり、製品仕様の決定や自主的な資材調達にかかわる、より知識集約度の高い機能を担ってきたことは上述のとおりである。このことは、グローバル経済下において途上国がさらなる経済発展(産業高度化)を実現するには、国内市場が重要となることを示しているように思われる。これまで東アジアでは主に輸出主導型の工業化を促進してきたが、グローバル経済化のなかで生産工程の国際的な垂直分業が進み、各生産工程がその生産要素集約度の違いに応じてグローバルに立地するようになると、海外企業が統括する生産・流通ネットワークを超えて、国内市場の中で機能の高度化を実現することが重要となってきた。

4) これらの点は、現在多くのアジアの国々で話題に上がっている「中所得国の罍」の問題に大きなインプリケーションを持つものと思われる。「中所得国の罍」とは、本研究では後発諸国がうまく国際生産・流通ネットワークに参画したものの、その後自国のイニシアティブによる産業の高度化がなかなか実現せず、いつまでも外国企業の統括下で付加価値の低い機能のみを担い続けている状況と位置付ける。

この問題に対し、本研究では国内市場の役割が重要である可能性を明らかにしてきた。つまり、縫製品の企画やデザイン、さらにはマーケティングという諸機能は極めてリスクの高い機能であり、こうした機能を担う場合には海外市場(輸出)ではなく、国内市場がより重要となりうるのである。

こうした視点を取り入れれば、グローバル経済化における途上国の今後の産業高度化は、対外的な貿易交渉で自国産業や企業の国際的なポジションを良くしようとするよりも、むしろ自国の国内のビジネス環境の整備に重点を置くことが重要となる。対外的には開放度を保ち、国際生産・流通ネットワークへのさらなる参画の機会を積極的に作り出しつつ、国内の制度的インフラの整備を合わせて進めることが、中所得国の罍を克服し、将来的に国際生産・流通ネットワークでもより高いレベルのイニシアティブをとるための道筋となる可能性が高い。

##### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

[雑誌論文](計 17 件)

Kenta Goto and Tamaki Endo.

“Labor-intensive industries in middle-income countries: traps, challenges, and the local garment market in Thailand” *Journal of the Asia Pacific Economy*, 査読有, Vol. 19, No. 2, 2014, pp. 369-386.

DOI:10.1080/13547860.2014.880283

Kenta Goto and Tamaki Endo.

“Upgrading, Relocating, Informalising? Local Strategies in the Era of Globalisation: The Thai Garment Industry” *Journal of Contemporary Asia*, 査読有, Vol.44, No.1, 2014, pp. 1-18.

DOI:10.1080/00472336.2013.794365

Takahiro Fukunishi, Kenta Goto, and Tatsufumi Yamagata. “Aid for Trade and Value Chains in Textiles and Apparel” *Sector Study Report for the Fourth Global Review of Aid for Trade: Connecting to Value Chains*, 査読なし, 2013, Geneva: WTO, OECD and IDE/JETRO, 1-55.

Kenta Goto. “Social Networks, Informal Trade Credit, and its Effects on Business Growth: Evidence from the Local Garment Trade in Vietnam” *Journal of the Asia Pacific Economy*. 査読有, Vol.18, No.3, 2013, pp. 382-395.

DOI:10.1080/13547860.2012.742683

Kenta Goto. “Starting Businesses through Reciprocal Informal Subcontracting: Evidence from the Informal Garment Industry in Ho Chi Minh City” *Journal of International Development*, 査読有, Vol.25, Vol.4, 2013, pp. 562-582.

DOI:10.1002/jid.1780

Kenta Goto. “Is the Vietnamese Garment Industry at a Turning Point? Upgrading from the Export to the Domestic Market” *IDE Discussion Paper 373*, 査読なし, 2012, Institute of Developing Economies, Chiba, 1-19.

Toshihiro Kudo and Kenta Goto. “What can the Myanmar garment industry learn from Vietnam’s experience?” *Policy Review on Myanmar Economy*, 査読なし, No.2, 2012, Bangkok Research Center, IDE-JETRO, Bangkok.

後藤健太.「ベトナム縫製産業 機能高度化と国内市場」『繊維トレンド』, 査読なし, 2012年5・6月号, 東レ経営研究所, pp. 36-40.

Kenta Goto. “Is the Vietnamese

Garment Industry at a Turning Point? Upgrading from the Export to the Domestic Market” in Fukunishi, Takahiro (eds) Dynamics of the Garment Industry in Low-Income Countries: Experience of Asia and Africa, Research Report 2011-IV-10, 査読なし、2012, Chiba: Institute of Developing Economies, pp. 1-23.

Kenta Goto. “ Implications for Laos ’ development of its increasing regional integration and Chinese influence” Asian-Pacific Economic Literature, 査読有, Vol.25, No.2, 2011, pp. 68-88.

DOI:10.1111/j.1467-8411.2011.01306.x

Kenta Goto. “ Competitiveness and Decent Work in Global Value Chains: Substitutionary or Complementary? ” Development in Practice, 査読有, Vol.21, No.7, 2011, pp. 943-958.

DOI:10.1080/09614524.2011.590886

後藤健太. 「ベトナム縫製産業の現状と課題」『繊維トレンド』査読なし、2011年7・8月号、東レ経営研究所、pp. 67-72.

Kenta Goto, Kaoru Natsuda and John Thoburn. “ Meeting the Challenge of China: The Vietnamese Garment Industry in the Post MFA Era ” Global Networks, 査読有, Vol.11, No.3, 2011, pp. 355-379.

DOI:10.1111/j.1471-0374.2011.00330.x

後藤健太・工藤年博「縫製産業におけるパフォーマンス格差とその要因」2010年度研究報告書『東南アジア移行経済の経済政策と経済構造：ミャンマーとベトナムの比較研究』アジア経済研究所、査読なし、2011、pp. 103-123 .

後藤健太. 「グローバル化時代の工業化戦略 ベトナムとカンボジアのケース」『2010年度産業セミナー年報』、査読なし、関西大学 経済・政治研究所、2011、pp. 21-30 .

Kaoru Natsuda, Kenta Goto and John Thoburn. “ Challenges to the Cambodian Garment Industry in the Global Garment Value Chain ”, The European Journal of Development Research, 査読有, Vol.22, No.4, 2010, pp. 469 - 493.

DOI:10.1057/ejdr.2010.21

後藤健太. 「ベトナム縫製産業の現状と将来展望 産業高度化と発展の可能性 - 」『化学経済』6月号、査読なし、2009、pp. 58-64 .

〔学会発表〕(計 4 件)

Tatsufumi Yamagata and Kenta Goto.

2013年7月8 - 11日 . WTO Aid for Trade 4th Global Review: Connecting to Value Chains. Session 19: Connecting to Textiles and Apparel Value Chains. (主催：世界貿易機関) 世界貿易機関本部、ジュネーブ.

Kenta Goto. 2012年7月19日. KDIS Development Case Study Series 2012.

“ Vocational Training and Economic Development ”. (主催：世界銀行) 世界銀行東京事務所、東京.

Kenta Goto. 2012年5月15 - 16日.

“ First thematic consultation on the post-2015 framework for development: Growth, Structural Change and Employment ”. (主催：国連開発計画・国際労働機関) JICA 研究所、東京.

Kenta Goto. 2009年10月13日 .

International Seminar on Jobs in Global Production Networks - Crisis and Recovery (主催：International Labour Organization and Thammasat University) “ Textile and Garment Industry in the Region amidst the Financial Crisis and its Recovery ”、タマサート大学、タイ.

〔図書〕(計 4 件)

Kenta Goto. “ Vietnam: Upgrading from the Export to the Domestic Market ” in Fukunishi, Takahiro and Tatsufumi Yamagata (eds) The Garment Industry in Low-income Countries: An Entry Point of Industrialization, Basingstoke: Palgrave Macmillan, 2014, pp.105-131.

後藤健太. 「戦後アジアの国際生産・流通ネットワークの形成と展開」宮城大蔵編著『戦後アジアの形成と日本』中央公論新社、2014年、pp.167-205 .

後藤健太・工藤年博「縫製産業におけるパフォーマンス格差とその要因」久保公二編著『ミャンマーとベトナムの移行戦略と経済政策』研究双書606、アジア経済研究所、2013年、pp.101-135 .

後藤健太. 「グローバル経済化とベトナム縫製企業の発展戦略 - 生産・流通ネットワークと企業パフォーマンスの多様化」坂田正三編著『変容するベトナム経済主体』、研究双書579、アジア経済研究所、2009年、pp.123 154.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：

出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

後藤 健太 (GOTO, Kenta)  
関西大学・経済学部・准教授  
研究者番号：70454981

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：